

Q16. なぜ、R2.7 豪雨を河川整備計画の目標流量としないのでしょうか。

- 河川整備の目標となる規模について、河川整備基本方針においては、全国的なバランスを考慮する必要があり、また、個々の河川や流域の特性を踏まえて定めることとなっており、計画の規模の設定にあたっては、河川の重要度（流域の規模や想定氾濫区域内の人口・資産等）を考慮するとともに、既往洪水による被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定めることとなっています。
- 球磨川においても、流域の規模や想定氾濫区域内の人口・資産等から、河川整備基本方針における計画規模を、年超過確率人吉 1/80、横石 1/100 規模として決めました。
- なお、令和2年7月豪雨時の降雨量は、その確率規模から算出される降雨量（気候変動考慮後）を大きく上回っていますが、実際に発生した洪水であることから、できるだけ被害を軽減するための対策を実施することとしています。
- そのため、河川整備基本方針に沿って定める河川整備計画の目標流量については、整備の内容の計画対象期間などを考慮の上、年超過確率人吉 1/50、横石 1/80 規模の降雨により算出される流量により設定しています。

表 球磨川水系における計画降雨量

基準地点	計画降雨量 ※下段は1.1倍前	参考値 令和2年7月豪雨実績
人吉	298mm/12h (271mm/12h)	322mm/12h
横石	301mm/12h (274mm/12h)	346mm/12h

※計画降雨量は、確率規模から算出される降雨量に、気候変動を考慮し1.1倍し算出

表 球磨川水系における河川整備計画の目標流量及び河道配分流量

基準地点	河川整備計画の 目標流量	河道への 配分流量
人吉	7,600m ³ /s	3,900m ³ /s
横石	11,200m ³ /s	8,200m ³ /s

- なお、この河川整備計画に位置づけた河川整備を実施することにより、令和2年7月豪雨が発生し堤防が決壊せず流下した場合、人吉市等の区間においては越水を防止し、中流部においては家屋の浸水を防止することが出来ます。
- また、一方で令和2年7月豪雨と同規模の洪水だけでなく想定し得る最大規模までのあらゆる洪水を想定して、あらゆる関係者が連携し流域全体で実施する治水対策「流域治水」による球磨川流域の強靱化を推進することで、洪水氾濫等による災害発生防止又は軽減を図ることも目指しております。

(参考)

この目標を達成するために、上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実な河川整備を実施することとしています。

なお、今後、流域の土地利用の変化や、雨水の貯留・浸透機能及び沿川の遊水機能の向上等に伴う流域からの流出特性の変化について、河川への流量低減効果としての定量化を図り、治水効果として見込めることが明らかになった場合は、適宜見直すこととしています。